

東京YMCA社会体育・保育専門学校スポーツインストラクター科
第2回教育課程編成委員会議事録

日 時：令和元年10月26日（土）18：00～19：30

場 所：東京YMCA社会体育・保育専門学校1階会議室

出席者：萩 裕美子、星住 秀一、堀 雄二、佐治克彦、杉内 伸生

I. 学校長全般報告

前回の委員会開催後の学内の様子、実習、今年の就職状況について報告がなされた。（堀校長）

II. 前回議事録の確認

別紙資料にもとづき、前回の提言を受け、学科にて検討した内容の報告がなされた。（杉内学科長）

III. 協議

- ・水泳業界を目指す学生が減少しているため、この仕事の魅力を積極的に発信したり、労働条件の改善状況を学生とシェアするなど、水泳業界の魅力を増す取り組みをすることが学校現場でも必要ではないか。（萩委員）
- ・幼稚園や保育所以外での子どものスポーツ活動に興味がある学生は授業のゆとりがあるので、指導力を伸ばすボランティアやスポーツ活動の場をより多く経験できるようにするのが良いのではないか。（星住委員）
- ・幼稚園教諭や保育士の資格取得を目指していたが、学習のスケジュールが過密であったり、興味を減少したりして断念する学生がいた場合も、可能な限り体験型の学習で、子ども達に接する力を伸ばせる機会を提供するとよいのではないか（星住委員）
- ・学生の多様なニーズに学校側が対応できるよう、卒業生のネットワークを利用するなどして、学生の心に響くアドバイスや目標設定をする体制を構築できれば、改善できる。（佐治副校長）
- ・近年の学生の質の変化に対応して、教育手法を考えることは、毎年行われているが、より個人に対応できるように教職員の意識をさらに高める必要がある。（堀校長）
- ・コミュニケーションが苦手な学生が実習先で、新しい自分を見つけた例があった。好きを仕事にすることの楽しさを学生にもっと分かり易く伝えて行くと、学習効率も上がるのではないか。（星住委員）
- ・改善提案内容が十分に実行されているかの確認が必要である。今までの例では、教科の先生に一任されている部分が多い。（佐治副校長）

IV. その他

堀校長より、来年の夏はオリンピック・パラリンピックでスポーツに対する社会の見方がまたひとつ深まる可能性がある。本校の学生にも間接的直接的にボランティアなどを通じてその意識を高め、将来現場で活躍して欲しいと願っている旨挨拶があり、委員会を閉会した。

以上

記録 佐治克彦